

# 普及センターだより

みんなで進めよう  
**茨城農業改革**

常陸太田地域農業改良普及センター  
常陸太田地域農業改良推進協議会

〒313-0013 常陸太田市山下町4119 TEL 0294-80-3340~2 FAX 0294-80-3348  
高萩駐在 TEL 0293-22-3061 FAX 0293-24-0210

## 第59号



平成二九年六月三〇日に常陸太田合同庁舎において、農村で生活する若い女性の交流会を開催し、五名が出席しました。

今回は、常陸大宮市に新規就農した都竹友美氏から農村で生活するうえで、仲間づくりの重要性や地域のコミュニティに溶け込むことの必要性などについて体験談を聞きました。出席者からは都竹さんの農業を始めるまでの経緯と、農業を始めて一つ一つの課題をクリアしていった話に共感し、今後の活動や生活の参考となったという感想が聴かれました。また、デザイナの手掛けた農ファッションを試着することでおしゃれで機能性のすぐれた農作業着について有意義な意見交換を行うことができました。

常陸太田地域農業改良普及センターでは、今後も個別巡回や交流会を通して若手女性農業者の支援を行ってまいります。

### 若い農村女性 交流会を開催

### 農場見学&就農 相談会in県北を開催

平成二九年九月二日、今年県内一〇か所で開催予定の農場見学&就農相談会の第四回目を常陸太田市で開催しました。参加者は県外一三名県内三名の就農希望者等一六名でした。

現地見学では花卉栽培で新規就農した鈴木夫妻から、先輩農業者の講話では、栗原昌則氏（施設及び露地野菜）、布施大樹氏（有機野菜）から話を聞きました。

三人の経営者で共通していたことは、「地域に溶け込むことが大切」ということでした。

その後、常陸太田地域及び常陸大宮地域就農支援協議会、新規就農相談、農業法人等就農相談、先輩農業者のそれぞれにブースを設け、就



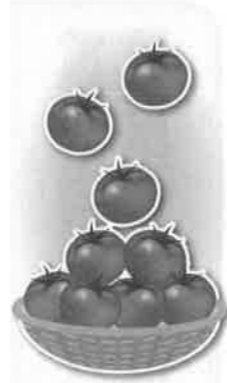
農相談を行ないました。

今後とも、新規参入希望者等と先輩農業者の話し合う機会を設定開催してまいります。

### 北茨城市の吉久保農園 が最優秀賞を受賞

第二一回茨城県施設野菜立毛品評会トマトの部において審査の結果、北茨城市の施設トマト経営の吉久保農園が最優秀賞（特別賞・農林水産大臣賞）を受賞しました。

受賞に伴い、平成二九年七月三十一日に開催された表彰式では経営主の吉久保憲章氏が、栽培・経営について事例発表を行いました。ハウス内環境制御技術を導入したことによるトマトの収量・品質向上効果や省力化についての話は参加者の関心を集めました。



### 高萩4H 沼田慎也さん 全国プロジェクト大会 にて発表

平成二九年二月二八日、高萩市の沼田慎也さんが、第五六回全国青年農業者会議において、「関東ブロック」の代表としてプロジェクト発表を行いました。従来の酪農経営に、新たに繁殖和牛経営にも取り組んだ内容で、会場からも高い評価を得ていました。残念ながら入賞は逃しましたが、沼田さんの今後の活躍が期待されます。

### 平成三〇年度県立農業 大学の入学生募集

県立農業大学では、高校等卒業生（若しくは見込み者）を対象に農業部（農学科四〇名・畜産課一〇名）園芸部（園芸学科三〇名）の学生を募集しています。

農業の実践力を養うとともに、大学への編入資格も得られます。

詳しいお問合せは、県立農業大学校（TEL〇二九一五二〇〇一〇）

### 新農業三士の紹介

平成二九年度に当管内で新たに次の方々認定されました。

○農業経営士

鴨志田秀幸氏  
常陸太田市

花卉（シクラメン・ポットカーネーション）

○女性農業者

岩淵 忍氏  
北茨城市

肥育牛＋農産加工

また、平成二八年度に次の方々が退任されました。

○女性農業者

作山 由美氏（高萩市）  
花卉＋水稲

○青年農業者

小野真太郎氏（北茨城市）  
肥育牛

長い間ご活躍いただき、ありがとうございました。



○人の気配に敏感なので頻繁に巡回して害獣にプレッシャーをかけます。

○漏電しないよう雑草管理はこまめにします。

漏電した場合はもちろん、通電しているほ場も電牧と認識せずに突破されることが多くなっています。

○被害が出る前に設置します。イノシシは一度でもその場で作物を食べると、執着してなんとか入ろうとする傾向があります。

○電柵は設置したらずく、昼夜を問わず通電します。見慣れない物を確かめようとして、電線に鼻先を当てたときに確実に感電させるのがポイント。電柵に慣れてしまうと鼻先で触れずにくぐり抜けようとするので電撃の効果が薄れます。

### 電柵設置のポイント

(八月九日開催 平成二九年 度地域ぐるみの野生鳥獣被害防止対策研修会から)

今年、空梅雨とその後の日照不足により、梨の生産・販売には過酷な条件になりましたが、生産者の努力により、品質の高い果実が数多く出品されました。

平成二九年八月二〇日(日)、JA常陸 常陸太田梨部会が果実品評会を道の駅ひたちおた体験交流室で開催しました。果実品評会は、昨年に続き二回目の開催で、一八点の出品があり、普及センター、常陸太田市販売流通対策課などの関係機関が審査に当たりました。



### 常陸太田梨部会が果実品評会を開催

花貫フルーツはおすきをふんだんに使用した「花貫フルーツほおずきアイス」が「二〇一六茨城おみやげ大賞」において、最高賞となる「最高金賞」を見事受賞しました。花貫フルーツほおずきは、地域の新たな特産品として育成するため高萩市等、関係機関と連携して生産振興を図っている品目で、果実は酸味と甘みのバランスが絶妙で、フルーティーな風味のあるのが特徴です。その品質は食

品評会終了後、梨部会研究部とぶどう部会青年部の共催による梨・ぶどう即売会を実施し、好評のうちに完売しました。

### 花貫フルーツほおずき 二〇一六茨城おみやげ大賞



専門家からも高い評価を得ており、東京方面の有名飲食店にも使用されています。「花貫フルーツほおずきアイス」は、高萩市の「花貫物産センター」等で販売されていますので、ぜひご賞味ください。



◆農薬は使用基準に従い正しく使いましょう◆

### 常陸秋そばの 安定生産対策

#### ① 湿害回避

そばは湿害に非常に弱い作物です。特に播種期〜本葉期の生育初期に湛水すると生育が強く抑えられ、ひどい場合には全枯死します。降雨後いかに早く表面水を排水できるかが重要となります。

具体的には、転換畑だけでなく畑地においても圃場周囲に明渠(排水溝)を設けることが望まれます。圃場内にくぼ地がある場合は、幅は細くても圃場外までのきちんとつながっている溝をつくるのが大切です。大型機械の入る圃場では、プラソイラーによる四〇cm程度の部分深耕の実施も排水性を大きく向上させます。

#### ② 土づくり(酸度矯正)

そばの土づくりは、堆肥等の有機物の投入が最も大切です。一方で、県北地域の一部のそば圃場では土壌酸度の低下が減収要因となっておりますので、こ

こでは特に酸度矯正について説明します。

そばの最適土壌酸度はpH(水抽出)五・五〜六・〇です。四・四以下では生育が著しく阻害され収量は半減します。

酸度矯正には石灰資材の施用が有効です。県北そば圃場に多い褐色森林土や黒ボク土では、pH(水抽出)四・四まで下がってしまうと、五・〇まで改善するために一〇〇kg/一〇a以上もの炭酸カルシウムが必要になります。一度に全量施用が難しい場合は三年間程かけて適正域に改善しましょう。

### 秋野菜の栽培

#### 夏まき秋冬野菜の管理

ブロッコリーやカリフラワー、レタス、キャベツ、ハクサイなどの夏まき秋冬どりの野菜が生育期〜収穫期を迎えます。この作型は、チョウ目害虫の被害と併せて、台風や長雨等の影響を受けやすいため、病害虫の防除を徹底するように心掛けてください。

レタス、キャベツ、ハクサイ	ブロッコリー、カリフラワー
軟腐病、コナガ、アオムシ、オオタバコガ、ハイマダラノメイガ(結球前に虫の防除を徹底します)	黒腐病、コナガ、ヨトウムシ類、ダイコンシンクイムシ等

【注意すべき病害虫】

#### おススメのこれからの栽培品目

##### 一・短形ダイコン

【栽培】  
一〇月には種し、一〇月下旬以降は霜よけのためトンネル被覆(もしくはハウス利用)、一二月から収穫します。通常ダイコンよりも短めの品種(三太郎、ころっ娘など)を選ぶと、作土が浅めでも栽培できます。

##### 【ポイント】

ベツ幅六〇cm×株間三〇cmの一条植とします。一穴二〜三粒は種し、覆土後かん水します。本葉三〜五枚で一本に間引き、その後、中耕・追肥し、株元に土寄せをします。収穫が遅れるとス入りや裂根が発生しやすい

ので、遅れないように収穫します。

#### 【注意すべき病害虫】

キスジノミハムシ(根の食害跡)、コナガ等チョウ目害虫

#### 二・縮みホウレンソウ

##### 【栽培】

一〇月中旬ごろまでに、は種します。縮みホウレンソウに向く品種を選んで栽培します(寒味、ちりめん法蓮草など)。は種後のかん水は土が乾燥しないよう適宜行います。

##### 【ポイント】

通常のホウレンソウより株間を広くします。(株間一〇cm、条間二〇cm程度)また、栽培期間が長いいため、堆肥などを多めに施用します。

##### 【収穫】

低温に遭遇し、茎葉が縮み、株重が七〇〜九〇gとなったころに収穫します。べたがけ資材やトンネル被覆などを活用し、生育促進、出荷期間の延長を図ります。

#### 【注意すべき病害虫】

べと病(生育期)

◆健康な土づくりで気象条件に左右されにくい農作物生産を実現しよう◆